

○第五次葉山町総合計画（素案）に対するパブリックコメントの実施結果について

資料1

8 者15件

No.	素案ページ	頂いたご意見	町の対応
1	全体	こどもまんなか社会、健幸というテーマについての意見です。 毎年夏の7月から8月は葉山公園の駐車場が有料になっています。 葉山には、この地域の自然を生かして屋外で活動をする幼稚園やフリースクール、保育会などがあります。そのような地域の子供たちの活動、日常的に公園を使っている町民の方々（健康維持の運動、散歩等）が夏の間は使い辛くなるので、無料では言いませんが、免許証を見せて町民であることがわかれば割引するなどの制度を設けてはもらえませんか？ 夏のハイシーズンは、海沿いの一色地域、森戸地域などは町外からの人が溢れます。毎年のゴミ問題、汚物の問題など、現地にお住まいの方が家の周りの事だからと綺麗にしてくれています。普段やらなくても良い掃除や作業が増える時期に、何か町民が夏に「葉山にいて過ごしやすい、良かったな」と思えるようなサービスが増えれば嬉しいなと思います。	県立葉山公園については、神奈川県在所管となっていることから、町民の駐車料金の無料化や割引等については神奈川県在所管課へご意見をお伝えさせていただきます。 また、町民が夏に「葉山にいて過ごしやすい、良かったな」と思えるようなサービスについては、今後の事業の検討の参考にさせていただきます。
2	全体	計画を見ているとコンサルティング会社が綺麗にまとめ上げているような感じがしてならない。一人ひとりを大切にし、楽しく、みんなが連携していくようなイメージだけが先行しているが実際はどうなんだろう？一人ひとりが幸せにならないならなぜ個人の質問に町長が答えないということが発生するのであろう。個人からの訴訟が起こるのだろうか？そして開発問題に関しては多くの地域で反対運動が止まないのだろうか？法律や条例に基づいて行政が行われるのであれば町全体でルールを作らなければならない。一人ひとりの意見を聞いていかなければ楽校なんてあり得ない。苦しいことしか今はない。計画だけ先行したとしてもそれを破る企業を誘致するのなら今の計画は全く意味をなさない。まちづくり条例は土地基本法に基づいているのであれば土地の転売屋利益を得るための行き過ぎを抑えるものではないか？円安が続けば世界からの葉山の開発が狙われるだろう。今はその防御策を考えるのではなく促進しているようだ。現状は事業者にとっては隙だらけのやりたい放題状態ではないだろうか？地方自治の独立性があるにもかかわらず条例も守らなくても良いなどと条例を意味のないものとしている町長の考えが全く理解できなくこの計画は再考すべきであるししっかりとした実現可能な根拠を示してほしい。町の景観は一度壊したら取り戻すことは難しい。安全に一人ひとりが納得したまちづくりをするならもっと住民の意見を聞くべきだし住民からの質問にはしっかりと回答するべきだ。パブリックコメントが期日中に出なければそのまま進めてしまう、コメントに対して回答をしなくても良いのであればこのシステムが本当に意味があるのか疑問である。1人の意見にしっかりと回答できないのであれば一人ひとりの幸せなどと計画に書くこと自体が信頼できない。	いただいたご意見につきましては、第五次総合計画（素案）に対する直接的なものでなく、別の事象に起因する行政に対する不信感からのご意見と拝察いたします。その上で、策定にあたってのパブリックコメントのあり方などにも言及されていますが、町としては総合計画策定条例に基づき策定の手続きを進めているところです。総合計画は、町の最上位計画として、町民と共有できることが望ましいものと認識しており、多くの意見を聞くべきというスタンスは町としても考慮すべきと考えていることから、いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。
3	全体	※多くの御意見をいただいておりますが、第五次総合計画（素案）に関するご意見として、次のとおり抜粋させていただきます。 ・Well-beingの向上を目的とする諸活動のエンジン役となる組織の必要性 ・その組織体は「スポーツコミッション」の機能を活用したもの ・その組織体は一貫した戦略プランのもとで、自らが情報発信とマーケティングの機能を持ち、マネタイズに結びついた持続可能なものであること ・Well-beingの見える化のために独自の指標（KPI）をもつこと ・そして数年先を見据え、PDCAを回すこと。 これらに基づく、まちづくりの新たな手法として、スポーツコミッション機能の導入を提案します。“有益な連携”を促進し、持続可能な取組みにするために、「スポーツコミッション（SG）」の機能を応用する。重要なことは自らが情報受発信とマネタイズできる組織であること。 「スポーツ」はあくまで“自分らしく、つながるまち”実現に向けた「手段」あくまでスポーツを目的化するのではなく、スポーツを活用し、他分野とも連携し、つまりスポーツコミッション機能を活用して、様々な地域課題の解決に寄与することを目的とするもの。 葉山町の場合は、「自分らしく、つながるまち」の実現であり、その実現のために葉山町民のWell-being感の向上に寄与すること。そのためのプロモーター、コーディネーターの役割をスポーツコミッションが担います。	第五次総合計画の目指すまちの姿「自分らしく、つながるまち」をより具体化させるために、3つの柱として「健幸」「楽校」「連継」を掲げました。この3つの柱を実現していくには、行政だけでなく、葉山町に関わる全ての人と歩みを共有し、取り組んでいく必要があります。このためには、いただいたご意見のとおり「Well-beingの向上を目的とする諸活動のエンジン役となる組織」は重要だと考えています。スポーツコミッション機能の導入につきましては、今後の参考にさせていただきます。

No.	素案ページ	頂いたご意見	町の対応
4	全体	※多くの御意見をいただいておりますが、第五次総合計画（素案）に関するご意見として、次のとおり抜粋させていただきます。 仲間内が集う（別に仲間でなくてもいいけど）コミュニティ拠点が複数ほしい。 そこに立ち寄れば誰かと会える、バカ話ができる。自宅でもない、職場でもない、第三の居場所。 つまり、多機能・複合型のコミュニティスペース。 こんな拠点が町中に点在とまではいかずとも、例えば、学校やスーパーの近くなどに効率よく配置されれば、町民の生活利便性とコミュニケーション機能は格段に向上するのでは？ ますます進行する超少子高齢化社会だからこそ、葉山のようなこじんまりした町には、世代を超えたつながりが自然と生まれる場所と仕組みがほしい。 ＤＸによる利便性はますます求められ、それに対応するいわゆるスマートシティ化は進行するだろうが、その流れと合わせて生身の人間同士が交流するリアルな場が今以上に必要となるのでは？ ただ、こんな理想的なハードが整っていたとしても、町民にとって意味のある拠点として有効に機能するかどうかはソフトウェア次第。 つまり、「人」が集い、「人」が動く仕組みづくり。 落ち着きがあり、ゆる～いけど、元気に満ちた葉山ライフを支えるものは、やはり「緩やかな人の集い、つながり」だと感じる。平時にはいい距離感を保ちつつ、いざという時頼りになる存在。超少子高齢化社会、いつ何時見舞われるかわからない災害。こんな時代背景には“遠くの親戚より近くの他人”	コミュニティ拠点を含めた公共施設については、「葉山町ファシリティマネジメント会議（ＦＭ会議）」において、修繕、更新、統合及び長寿命化を含めた総合的な管理の実現と、将来にわたっての公共施設の機能維持を検討しているところです。 いただいたご意見も含めまして、公共施設にかかる財政負担の軽減と町民が使いたいと思える施設を目指すため、公共施設の方向性を示すとともに将来のあり方を検討してまいります。 また、「町民にとって意味のある拠点として有効に機能するかどうかはソフトウェア次第。」のご意見については、ご意見のとおりだと考えますので、事業・施策の検討の際には留意しながら進めてまいります。
5	全体	「健幸、楽校、連継」のキーワードは、当て字の熟語ではなく誰でも理解できる簡潔な優しい言葉にすることが浸透するかもしれない。コンセプトとしては共感します。 内容を拝見するに、現段階では他行政地域でも当てはまりそうな内容・粒度であるものが多いと感じられた。ぜひ、葉山がが優先的または先進的に挑戦しよう・したいと思っている内容を、骨子の段階でもより強調・明確にしていきたい。	３つの柱については、目指すまちの姿である「自分らしく、つながるまち」をより具体化するために、意味や方向性がイメージしやすいものとして設定をいたしました。 第五次総合計画を推進していくためには、この３つの柱をどう浸透させていくかが重要だと考えていることから、３つの柱の意味や想い、取組みについて周知を図るとともに、葉山町に関わる全ての人と共有できるよう取り組んでまいります。 なお、第五次総合計画については、施策の基本的な方向性を記載し、具体的な取組みや事業内容については、各分野の行政計画や実施計画等に記載すべきと考えています。
6	全体	18歳以下の子どもたちの意見表明権を確実にするため、「意見形成支援」をする人材や場、大人のスキルアップの機会をお願いしたいです。また、子どもの周りにいる大人による組織を超えた交流を確実に行ってほしいです。 （※）子どもの意見形成支援を確実にできるようにしてほしい、組織をこえて交流してほしい大人の例 ・学童の先生 ・児童館の先生 ・保育士や幼稚園教諭 ・学校の教職員 ・家庭の保護者 ・自治会役員 ・児童養護施設の職員 （※）人材や場のアイデア 「児童館」 児童館職員が、子どもの対話をひらいたり、遊びを通じた子どもの意見のキャッチをする 「秘密基地」（木古庭） 今は無人ですが、プレイリーダーを配置することで、子どもと遊んだり関わりながら子どもの意見をキャッチ 「自治会」 今は大人だけで運営していますが、大学生や高校生のメンバーも募集。小規模な地域の運営を多世代で行う	子どもたちの意見表明権については、「葉山町中学生・高校生議会」の開催や、第五次総合計画の策定に向けての「まちづくり未来アンケート」の実施等の一定の取組みを行っていますが、大人だけでなく子どもの意見や想いをまちづくりに活かしていくことや、子どもを支える大人が交流することは重要なことだと考えますので、ご提案につきましては今後の参考にさせていただきます。

No.	素案ページ	頂いたご意見	町の対応
7	全体	※多くの御意見をいただいておりますが、第五次総合計画（素案）に関するご意見として、次のとおり抜粋させていただきます。 ＜以下「第四次計画」＞構成期間中 1. 人口減少（高齢化社会急進、出生率低下少子化） 2. 激甚化する自然災害多発 3. 新型コロナウイルスパンデミック 4. 情報通信技術発明アナログからデジタル化急速拡大 100%予測しえない事柄ではありませんでした（その他女性活躍を奪う男性優位社会状況） 町民も町行政も変化の兆（きざ）しを30%～50%ぐらいは察知体感していたはずです。 残念ながら町民の対応、町行政の対処に機動力を欠きました。 総合計画+個別計画＝行政計画、全体体系からPDCAは機能しませんでした。 「総合計画」は町が策定する行政計画のなかで「最上位の計画」と云う位置付け、定義（意義）に異論はありませんが、然らば「第五次葉山町総合計画（2025年度～2040年度）」（以下「第五次計画」）が個別計画に対して最上位計画たる必要十分条件は何ですか 「第五次計画」はまるで「第三次葉山町総合計画」の形式主義、冗長計画再来の錯覚嫌悪感を懷（いだ）いてしまいます。 ・山梨町長は「第五次計画」策定に当たり簡潔言語化に失敗しました。新語、造語、合成複合語、派生語を鏝（ちりば）めて語呂合わせ言葉遊びに終始しました。学童が連想ゲームに興じているように見えます。 ・方向方針がピンぼけとハレーションを起こし葉山町を多岐亡羊へ誤誘導しています。イノベーションなき前例踏襲は同語反復（トートロジー、tautology）に嵌まりました。 ・ウェルビーイング（Well-Being）は町長お気に入りの用語です。「第五次計画」へ新導入しました。導入に執着する町長の「ウェルビーイング」の解釈を存じません いち町民私の感覚からは世間に普及しているわけでもなく大袈装に採り上げる用語ではないと思っています。 ウェルビーイングは Gross Domestic Well-being の頭文字GDWです。国民一人ひとりの暮らし充実度幸福度のことです。GDP（Gross Domestic Product）＝国内総生産が一国の国内でつくられた付加価値総額と対（つい）の考えです。 ・施策体系3つの柱 「健幸」「楽校」「連継」は 「健康」「学校」「連繋は連携」の語呂合わせにすぎません。 「第五次計画」をこのような羅針盤で船出する山梨町政は今後四年のうちに暗礁に乗り上げるか漂流することになり町政遅滞をさけられません。 緊急対応や処置を手付かず放ったらかした、先延（さきのば）しすることになります。 ・「第五次計画」構成体系、諸行政個別訪画（以下「個別計画」）現状と課題について町民サイド行政サイド両者共通認識シェアが不可欠です。 ・関連する個別計画が錯綜しすぎています 一見緻密にみえて網羅羅列は町長部局のみならず町行政部署全体にむり（無理）むだ（無駄）むら（斑）ハレーション・イラジエーションを起こしています。 白黒印刷から多色刷りカラー印刷に変更しても小さな細かい活字は視力弱視読者に限らず千里服の持ち主、健常者だって判読は容易ではありません。通読を諦め読解しようにもできません。 ・もはや役割を果した個別計画の断捨離を企ってください。 重複する個別計画の取捨選択をしてください。この作業を経ない策定は先例継続です。いっその事「第四次／第三次」をそっくりそのまま「第五次計画」にするほうが手っ取り早いと思います。 尤も、もうすでに「第五次計画、個別計画」の体系は先例踏襲が完成済です。行政サイドの思考停止帰結、其の物ずばりです。 ・四選後一期4年は山梨町政のロケットスタートが重要です。「第五次計画」「個別計画」に加えPDCAを具現するため仮称「（4年毎）中期運営計画、Mid term Management Plan（MMP）」策定検討をお願いします。	多くのご意見をいただきましたが、主に①総合計画の位置づけ、②3つの柱、③個別計画の多さ、についていただいたご意見だと認識しています。 ①総合計画の位置づけについては、地方自治法の改正によって市町村の法的な策定義務はなくなりましたが、葉山町においては、総合的かつ計画的な町政運営を行うためには、まちづくりの基本理念、目指すべき将来像を定める総合計画の策定が不可欠であると考え、「葉山町総合計画策定条例」を制定し、本条例に基づき策定をしています。特定の行政分野に限らず、まちづくりの基本理念、目指すべき将来像を定めるための計画であることから、最上位計画と位置づけています。 ②3つの柱の「健幸」「楽校」「連継」について、造語を用いた理由といたしましては、目指すまちのすがたである「自分らしく、つながるまち」をより具体化するために、意味や方向性がイメージしやすいものとして設定をいたしました。 第五次総合計画を推進していくためには、この3つの柱をどう浸透させていくかが重要だと考えていることから、3つの柱の意味や想い、取組みについて周知を図るとともに、葉山町に関わる全ての人と共有できるよう取り組んでまいります。 ③個別計画の策定数については、大きく分けて、法律や条例に基づき策定が義務化されているものと、努力義務として位置付けられてものの2つに分けることができます。努力義務として位置づけられている個別計画のあり方については、その法律や条例の趣旨に鑑み、今後の検討の際の参考にさせていただきます。 その他、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。

No.	素案ページ	頂いたご意見	町の対応
8	29、30	【教育】 当方は葉山にあるオルタナティブスクールに通う子供をもつ親です。 ・全国・全世界で生き抜いたり、より良くするために活躍できる人材に繋がる、他県・他行政の参考となるようにどんどん施策にチャレンジして頂きたい。 ・従来の学校教育では創造性も競争力も高まりにくいため、変革のためのチャレンジを日本を代表する気概でどんどん行っていただきたい。 ・「系統のかつ探求的・創造的な学び」「個別最適・協働的な学び」「DX」「人材・地域連携」の政策テーマや施策軸については大枠は共感します。ただ、他県他国に学び取り入れることと、葉山の特色がある領域において一貫した町ぐるみで取り組む、教育・人材・産業がつながったような明確な柱をいくつか定めて取り組んでもらいたい。 漫然と全方位に注力すると成果が上がりにくいため、この柱を町ぐるみで強化していく！という領域を明確にし、町全体にアナウンスしたり、協力体制を構築してほしい。 柱の例： ・自然や産業活性化に関する科学的なアプローチ 豊かな自然と破壊や変化が進んでいる両面に直面している状況ではあるが、人口（主に生産人口）が減少していたり、それほど効果の高くない施策に人員をかけて対応していることも現状ある。より効果・効率的な施策の研究や継続的な実施が必要。 →関連研究機関・大学・企業との連携し、継続的に実施・調査する。 →経過についても積極的に広報する。 →町民・子供や周辺区域からの移住や関係人口が上昇することも期待できる。 ・STEAM（アート思考、システム思考、デザイン思考含む）、最新ICT技術を活用、国際交流 交通の便が良くないところもあるが、それを跳ねのけて、今後の社会を生き延びる・開拓するために必要な実力やマインドセットが身につく町、にしてもらいたい。 意欲的・先を見据えた施策を町全体で推進している、というブランディングをするくらい行ってもらいたい。 ・豊かな自然体験と先進教育が両立している、というブランディング など。	教育に関する貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。 第五次総合計画については、施策の基本的な方向性を記載し、具体的な取組みや事業内容については、各分野の行政計画や実施計画等に記載すべきと考えています。 このことから、いただいた具体的なご意見については、「教育総合プラン」等の教育分野の行政計画や具体的な施策の参考にさせていただきます。
9	40	【環境・交通】 ・バスの減便や渋滞などの住民の住みやすさに影響を与える課題は大きい。今後も問題が大きくなることが予想されるため、検討は多角的かつ早急に行うべきである。 移動・交通関連のMaaSやシェアライド、シェアバイク、駐車場問題の解決や無人運転研究協力など、積極的に早急に行ってもらいたい。 ・宅配や物流問題に関しても、中間配送拠点やラストワンマイル配送の自動化・無人化・ロボット化など、先進研究に協力してもよさそう。	地域公共交通に関する取組みは、町民の暮らしを支える重要なものと考えています。 具体的な取組みについては、「葉山町地域公共交通計画」に基づき進めてまいります。いただいたご意見についても今後の参考にさせていただきます。
10	41	朱字部分の追記を提案します。 ②農地活用の推進 施策の方向性 農地所有者へのアンケートにより農地の出し手と受け手を把握し、マッチングを推進するとともに町民農園の拡充による農地の活用を図ります。また、新たな担い手に就農してもらえよう、かながわ農業アカデミー等が開催する就農相談会に積極的に参加します。更に農地活用としてソーラーシェアリング等、社会課題である脱炭素の取り組みなど、農業以外の課題と「連継」した取り組みを推進します。 【提案理由】 ・農業従事者の高齢化と減少、後継者不足、耕作放棄地の増加、農地面積の減少、収入の減少、食料自給率の低さ等、社会課題へアプローチする追記することを提案します。	農地活用については、土地所有者の意向が第一であることから、ソーラーシェアリング等の具体的な取組みについて記載することは難しいと考えますが、食料自給率の低さ等の社会課題への取組み等は今後の参考にさせていただきます。

No.	素案ページ	頂いたご意見	町の対応
11	41	朱字部分の差替を提案します。 ②資源循環型農業の推進 施策の方向性 化石燃料や鉱物を原料とした化学肥料から、家畜ふん堆肥や生ごみ資源化処理施設等から製造される堆肥を活用した資源循環型農業を推進します。 →「化石燃料や鉱物」の言葉に特定され、今後、社会課題である脱炭素の取組みの制約となる可能性のある文言を差替を提案します。 (差替後の文面) 家畜ふん堆肥や生ごみ資源化処理施設等を活用した畜産バイオマスなどを有効活用した地域資源・エネルギーの地産地消した資源循環型農業を推進します。 【提案理由】 ・葉山町の方々が主役となった、地産エネルギーによる分散型エネルギー社会実現に向け、地域特性を活かした、まちづくりを持続的に成長させるためご提案します。	いただいたご意見を参考にし、文章を「家畜ふん堆肥や町生ごみ資源化処理施設等から製造される堆肥を利活用した資源循環型農業を推進します。」と差替えました。
12	41	ちょいちょいいいところは点在する葉山だが、外から多くの人を集客する観光スポットはない？夏の海遊び程度？ そんな環境下、「葉山名産」ができないか？ わざわざ葉山に何しに来るか？ 葉山に来なければ体験できない何かを求めて、若者（若者とは限らないけど）が集まる。究極の“コト消費”。 葉山らしいロケーションで、葉山シニアと一緒にどこが懐かしい体験ができ、逆に新しい間隔をもった気鋭のアーティストのワザに触れる。 葉山時間を堪能し、葉山自慢の風景（海、山、夕日などなど）とはやりのオリジナル食との映えるワンカットをお土産に。 そこで接点を持った「人」「場所」とのネットワークを継続し、繰り返し訪れたいくなる。継続して来客する第二葉山民が一定数存在する。 町外の人にとっても、“第二の故郷、葉山”、“気軽に行ける息抜きの場所”的な存在？ ここでも、葉山の「内」と「外」との“人のつながり”。 そんな葉山を生活とビジネス、活動の拠点として、クリエイティブで、エネルギッシュな大人が集まってくことを期待する。 “コト消費”を提供する人財の集積→アクティビティの実践＝訪問客の増加→経済効果。 観光地として発展する必要はなく、葉山外の人にとってもここはやっぱり“第三の居場所”。別荘地としての葉山には、もとからその要素が根付いているのでは。	葉山町の新たな特産品・魅力の創出については、基本施策の1つとして位置づけ、第1期基本計画期間において取り組んでまいります。 いただいたご意見につきましては、今後の参考にさせていただきます。
13	43	自然環境分野の基本施策について、 1/省エネ・再エネに取り組むまちづくりの 現状と課題で「2050年のカーボンニュートラルを目標に掲げた「はやま気候非常事態宣言」を 2021 年 3 月に表明し、町施設の使用電力の約9割を再エネ由来の電力に切替えるなど取組みを推進しています。今後も事業者や町民と協力して取組みを進めていく必要があります。」と記載がありますが、町役場が自ら行う取組みが中心となっており、町民の行動を促す要素が抜けているように見えます。 町内の温室効果ガス排出量を総体的に考えた場合、公共施設以外に、町民の住宅でのエネルギー利用や自家用車からの排出量の方が大半を占めると思われますが、町内の排出量のバウンダリーはどこまで含めているのかを明確にする必要があると思います。いずれにせよ、町民の行動変容を促すアクションも重要と思います。 施策の方向性(原稿) 「公用車の EV 導入、庁舎への太陽光パネルの設置を行い、省エネ・再エネに取り組む他、ブルーカーボンなどの葉山の特徴を活かした取組みを推進します。カーボンニュートラルの実現に向け、温室効果ガスの削減を町全体で進めます。」 上記にコメントしました通り、町の排出量のバウンダリーを明確化することに加えて、分野別の排出量の構成に基づいた施策が望ましいと思います。原稿の施策は役場中心になっていると思いますが、町民の住宅の省エネ改修や住宅の屋根に設置する太陽光発電の導入拡大、または町民のEV導入を促す充電設備の拡充も重要と考えられます。EV充電に関しては役場以外に民間企業との協力を念頭に、町民の生活のハブとなっているスターバックスや葉山ステーション等での設置を事業者に促す取組みも可能ではないでしょうか。 これらの施策は神奈川県、国・省庁(環境省、国交省、経産省)の施策と連携して、効率的に町民及び地場企業が補助予算を獲得できるように、家庭・事務所の省エネ・再エネ・EV導入に向けた相談窓口を取り入れるのは一つの効果的な施策と考えられます。	いただいたご意見を踏まえ、「2050年のカーボンニュートラルを目標として、町施設の使用電力の再エネ由来電力への切替え（約9割）、町民向けの再エネシステム・EV導入の補助、環境配慮行動の普及啓発などの取組みを推進しています。今後も事業者や町民と協力して取組みを進めていく必要があります。」としました。 また、第五次総合計画については、施策の基本的な方向性を記載し、具体的な取組みや事業内容については、各分野の行政計画や実施計画等に記載すべきと考えています。 このことから、分野別の排出量の構成に基づいた施策など具体的なご意見については、令和6年度策定予定の「地球温暖化対策実行計画」に記載すべき内容かと考えますので、計画策定の際の参考にさせていただきます。

No.	素案ページ	頂いたご意見	町の対応
14	44	政策指標(原稿) 温室効果ガス削減率(2013 年度比) 2,581,866kg-CO2(2013 年度) △46%(2028 年度) 主要施策によってこれらの政策指標にどの程度貢献する見込みなのか、見える化できるとそれぞれの施策の進捗状況を年次に測れると思われます。 また総合計画全体に関する意見として、定期的にそれぞれの分野別の政策指標のレビューと報告プロセスも明確にする必要があると思います。 分野別に専門家、町民、地場企業、若者、役場の担当課などの関係者を集めて、参加型の戦略会議・分科会を設置することで、横連携の実践を図るのも有効かもしれません。	第五次総合計画については、施策の基本的な方向性を記載し、具体的な取り組みや事業内容については、各分野の行政計画や実施計画等に記載すべきと考えています。 このことから、施策の成果の見える化など具体的なご意見については、令和6年度策定予定の「地球温暖化対策実行計画」に記載すべき内容かと考えますので、計画策定の際の参考にさせていただきます。 また、総合計画の定期的な政策指標のレビューと報告プロセスですが、毎年度、総合計画審議会を開催し、そこで進捗報告をさせていただき、ご審議いただいております。
15	49	○まちづくりの拠点としての学校整備に追記することを提案します。(朱字部分) 新しく整備する学校は、教育環境の充実とコミュニティ施設等の機能を持たせた複合施設化を含む“シェア”により、施設の機能・価値を高める“バリューアップ”と、公共施設の総面積を縮小させるダウンサイジングを同時に実現し、まちづくりの拠点として持続可能なファシリティマネジメントに寄与します。また、新しく整備する学校は災害時の指定避難所となるため、レジリエンスを強化します。 【提案理由】 葉山町地域防災計画(地震津波対策計画編)の「第2部災害予防計画 第1章地震に強いまちづくりの推進 第4節 建築物の防災化の推進 1 建築物の防災化」の中で、災害対策機能の強化が記載されています。商用電源の停電時でも照明や携帯電話の充電および空調等の必要最低限の電力供給が継続できるように自立分散型電源(太陽光発電と蓄電池、コージェネレーションシステム、停電対応型ガスエンジンヒートポンプ等)②避難生活を送る人々の健康や生命を維持する上で重要な空調設備③給食室を炊出し施設と利用するための設備などの検討を提案いたします	新しい学校におけるレジリエンス強化について、まちづくりの拠点として重要な視点の一つと認識しており、具体的な検討の際の参考とさせていただきます。